



市長 からの 手紙

59 セーレムとポートランド

姉妹都市提携30周年を祝うため、6月24日から30日まで、オレゴン州セーレム市に行ってきました。

セーレム市を訪れたのは25周年のとき以来で、今回が2度目となります。最初のときも今回もそれほど多くの場所に行ったわけではありませんが、いかにも州都らしい落ち着いた品格の感じられるまちの様子は前回と変わっていないように感じました。日本の諸都市に比べると、ゆったりとおおらかに物事が動いているような印象を、今回も受けました。

セーレムから北に車で約1時間ほどの場所にある、近年全米でも住みたいまちのトップの座を維持しているというポートランドのまちづくりについて視察しました。前回訪問したとき、ポートランドは「職場、ショッピングセンター、病院など生活に必要な施設が住まいから歩いて30分以内にあるようなまちづくりをしている」

という興味深い話を行政の担当者から聞きました。今回、そのまちづくりがどう進展しているのかを確認したところ、「現在進行中である。順調に進んでいる地区もあればなかなかという地区もある」ということでした。

ポートランドは、環境に優しい政策を続けていることでも世界的に有名です。ライトレール(light rail)と呼ばれる路面電車のような鉄道と自転車の普及に力を入れ、コンパクトシティ化政策と併せて、経済を発展させながら二酸化炭素の排出量を減らすという、かなりハードルの高い目標を掲げ実践しているという説明でした。ライトレールに試乗して、最近建造されたウィラメット川にかかる鉄橋も見学しました。この鉄橋は、歩行者とライトレール専用のものでした。

ライトレールについて聞いたところ、その運営経費の3割は運賃収入、7割は税金からの補てんで賄っているそうです。経費の7割を税金から補てんしなければ維持できない公共交通機関を今でも拡大・延伸しているということは、よほど工夫をしないと、遠からず財政面での壁に直面します。政策の理想は分かりますが、果たしてこれは持続可能なのか、という点については今後の大きな課題であると感じました。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 17
緑化をはじめてみませんか

環境政策課 224・5866

「緑化」という言葉を聞いて皆さんはどのような印象を持ちますか。企業や行政が行う大規模な工事を連想する方もいるかもしれませんが、緑化は難しいものではありません。簡単に言えば、「緑化」とは「みどりを増やすこと」です。

しかし、スペースがなければ緑化はできません。特に、市街地の地上部ではスペースが限られてしまったため、みどりを増やすことは簡単ではありません。

そこで、市では限られたスペースへの緑化に対する支援として「川越市みどりの補助金」という制度を設け、生け垣の設置・屋上緑化・壁面緑化・駐車場緑化に対して補助金を交付しています。昨年度、この制度を利用して生け垣を設置した方は、「生け垣を作るかどうか迷っていたけど、やっぱり作って良かった」と話してくれました。制度を利用した多くの方が、身近にみどりがある生活を楽しんでいます。

一人ひとりが緑化を行うことで川越市のみどりを増やすことができます。環境にやさしく、生活に潤いを与えてくれる屋上緑化や駐車場緑化などを、自宅や会社で実施してみたいかがでしょうか。

